

研修報告 経済建設委員会

熊本県から、熊本と台湾の高雄との定期路線開設に伴う利用促進の要請もあり、平成28年1月19日から22日までの日程で、台湾の高雄市と台南市の経済産業等の状況を視察し、本町の観光や特産物の販路拡大につなげることを目的に研修を行いました。

公益財団法人交流協会との意見交換では、貿易、経済、技術面で、高雄市は、物価の安さ、優秀な人材、政府の優遇策等もあり、日本企業も多い。特に、台湾への訪日旅行者数は、約283万人と急激に増加。

日本への観光で期待する1位が日本食、2位ショッピング、3位自然の景勝地観光で、年齢層の、20代、30代は、インターネットを通じた情報収集が多い。

観光客を呼び込むためグルメ、温泉、体験型、古民家の利用などの工夫が必要と感じた。

台南市にある「瓜瓜園」は、台湾政府の支援

女性枠を設ける活発な議会であった。

を受けた「からいも」の6次産業の会社で、苗の組織培養、育苗、管理、収穫、加工販売まで一貫した生産体制を確立。

商品開発技術を活かし、アメリカ、香港、日本への輸出、台湾国内のコンビニやレストラン販売、観光としての工場見学などを展開し、地域の就業の場や農業振興、地域活性化に貢献しており、町でも、新しい産業育成を進める必要性を感じた。

高雄市内にある「東南旅行社」「富康旅行社」との意見交換では、特に台湾の皆さんは、日本食や体験型の旅行に関心があり、大津のおいしいグルメ店や体験ツアーが出来る場所や観光地などの情報発信がほしい。

台湾と大津町の小学生との派遣交流計画を実施することや大津産の「からいも」のてんぷらを、台湾国内において販売したいとの要望もあった。

高雄市議会では、議員定数は66名、うち女性議員25名、選挙区の人口で、



台湾高雄市議会と意見交換

町だけでは、観光客の集客に限りがあり、空港周辺自治体、県内や九州管内の自治体とタイアップして取り組むべき課題もあると感じた。

研修報告 議会活性化委員会

1月27日、山口県山陽小野田市を訪問し、議会活性化の取り組みを研修した。

○議会基本条例の制定の経緯
○討議の充実（政策討論会など）

○市民との接点
○議会中継

議会基本条例について
・H21・11の改選後、2年以上をかけた52回の慎重審議を経てH24・3制定

・当初は条例先行か、改革先行かで議論もあったが、有識者を招いての講演を実施し、条例先行とした

討議の充実については
・政策討論会が議員全員参加、公開のもと行われていること。

・これまで4つのテーマについて議論し、その結果を政策提言として執行機関に提出していること

などのほか、政策討論会の流れや方法について説

明がありました。

市民との接点について
・市民懇談会、自治会懇談会、議会報告会の3つの取り組みで進めていることについて、それぞれ対象や開催頻度、運営方法等について。

・また、当初は「取り組みの必要性」そのものについて疑問もあったが、条例に明記したことで現在はスムーズに運営されている。

議会中継については

・H21年からインターネットでの本会議の中継を開始し、また昨年9月から委員会中継も実施していること

・それにともない、委員会記録の公開、本会議・委員会資料をホームページで公開するとともに、傍聴者には「貸与」ではなく「配布」していることなどについて説明がありました。

この説明のあと、説明内容その他議会全般についての質疑が、行われました。

・議員の報酬カット
・委員会を中継することによる委員会審議への影響
・議会改革に伴う、執行部側の変化
などの質疑がありました。今回の研修で各委員が得た成果は、今後委員会での検討に反映され、住民のニーズに対応する開かれた議会の実現に役立てていきたいと思えます。



活性化特別委員会